

第14回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

◆日時 令和3年12月17日（金）14時00分～16時00分

◆会場 南あわじ市中央公民館研修室

◆出席者 委員：8名

松坂委員（委員長）、登里委員（副委員長）

浅井委員、鈴木委員、堤委員、金沢委員、今田委員、福成委員

事務局：4名

総務企画部付部長、ふるさと創生課長、ふるさと創生課担当

傍聴者：1名

◆会議の概要

1. 開 会

委員長あいさつ

総務企画部付部長あいさつ

2. 報告事項

報告①：まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

・事務局から南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

・なし

報告②：令和2年度総合戦略事業における進捗管理

・事務局から令和2年度総合戦略事業における進捗管理について説明した。

【委員の主な質問・意見・評価】

●農村を災害から守り、環境を各世代で維持管理する活動のための新技術の導入

・委員：災害から地域を守るためには、担い手が集まり、話し合う機会を設けることが最初のきっかけになるのではないかと。地域で実際に事業を実施している担い手自体は同じ人であることが多いにも関わらず事業間連携が取れていないということに疑問を感じるし、根本的に話し合う機会が足りていない。そのための支援が必要でないか。

●安全かつ利便性の高い道路交通網の整備、子どもたちが安心して通学できる環境整備

・委員：市道の施工やグリーンベルトの整備については、その延長で評価しているものの、

子どもの足よりも狭い幅のラインが敷かれている状況も見受けられる。さらに、路上駐車にふさがれてしまっている状況も見られるため、工夫が必要ではないか。

⇒事務局：グリーンベルトの整備については、特に学校周辺で力を入れており、子育て対策の観点から今後も工夫して実施していく必要があると考えている。事業の評価にあたっては施工延長だけでなくその質が重要であることから、こういった指標が最適か全体的な見直しを検討したい。

報告③：地方創生推進交付金充当事業（個別評価シート）

・事務局から令和2年度に地方創生推進交付金を活用して実施した事業について説明した。

1. A S Aトライアングル（南あわじ・鳴門・東かがわ）を結ぶ、サイクリング ツーリズム推進事業

【委員の主な質問・意見・評価】

・委員：サイクリング客の誘致に向けた環境の整備が順調であるとは感じられない。グリーンベルトと同様に、質を重視した整備が重要。

1. 南あわじ版「人生二毛作社会」推進プロジェクト

【委員の主な質問・意見・評価】

・委員：おもしろポイント制度は、付与するポイントを増やすことで更なる活動者の増加と市内経済の好循環拡大を狙えるのではないか。

⇒事務局：あくまでボランティア活動であり、受益者である事業者に負担してもらうという観点からポイント制度としている。ポイントを利用しない活動者もおおり、付与されたポイントより消費額の方が小さくなっていることから、ポイントの増量で大きく盛り上がるものではないと認識している。一方で、地元で消費してもらうことも狙いの一つで、非常に重要であることから、その点も大切にして引き続き取り組みを進めたい。

・委員：60歳以上が対象とのことだが、現役を退いた人に登録してもらうのは大変であるため、対象年齢より下の人にも周知し、事前に登録しておいてもらうことも必要ではないか。

・委員：老後2,000万円問題をきっかけに老後の貯蓄については話題となっている。一方で、シルバー人材センターでの活動をやめてしまった人もおり、理由を聞いてみると、働き手が足りておらず自分のペースで参加できないとのことだった。

・委員：参加者が具体的にどういった活動をしているのかわかりにくいため魅力を感じづらいし、事業を認識していない住民も多い。参加者を増やすためには、チラシだけ

でなく地域に来て、どういった活動をしてほしいという説明をしてもらいたい。自治会や隣保長経由で毎年開拓していけば活動者も増えていくのではないかと。

⇒事務局：現在は大々的に募集するというやり方が主になっている。まだまだ事業の認知度が低いことは承知しており、担当も啓発を進めている。今後は個別の集まりの場で説明し、登録につなげていくやり方も必要であると感じている。

- ・委員：自分がおもいやりポイント制度での活動を始めて3年目になる。気持ちに張りが出てきて健康にはよいと感じる。ただ、事業者から単に指示を受けるだけの活動では自分が必要とされていない感覚があり、軽く見られていると感じることがあった。登録者が増えないのにはそこにも原因があると思う。一方で、事業者から感謝の言葉をかけられ、必要とされていることが感じられたため、活動回数を増やした人もいる。

⇒事務局：本事業は高齢化社会の克服という観点で、高齢者に元気になってもらえば社会保障費がかからないなど、いつまでも社会とつながりを持ってもらうことが大きなポイントである。ご指摘を踏まえて事業そのものの在り方について検討させていただきたい。

3. 南あわじ市の歴史文化遺産を体感するヘリテージツーリズム事業

【委員の主な質問・意見・評価】

- ・委員：玉青館の展示は非常に良いものであったが、施設までの道順がわかりにくい。来館者の状況は。

⇒年間の来館者が約3,000人程度。特別展示を開催すると1回あたり1,200から1,500人程度の来館がある。

4. 淡路島総合観光戦略推進プロジェクト

【委員の主な質問・意見・評価】

- ・委員：市内には様々な資源がある。日本農業遺産の認定を受けているが、あまり認知されていない。観光客のニーズの変化に対応する必要もあることから、様々なテーマで広報を進めてもらいたい。

5. ふるさと教育による南あわじ市「学ぶ楽しさ日本一」プロジェクト

【委員の主な質問・意見・評価】

- ・委員：ふるさとを愛する児童生徒の割合の伸び率で事業を評価しているが、ふるさと愛は大人になって感じるものであり、子どもに押し付けるものではない。子どもが興

味を持たたか、好きになれたかなど、そういった視点が重要である。淡路島にずっといてその良さを感じるのが難しいため、修学旅行なども活用し、違う地域と比べることで淡路島の良さを知ってもらうなど、子どもたちに気づきを与える機会を作っていくことが重要。

- ・委員：アフタースクール事業について、最近耳にするようになってきた。他の地域にも広げるということだが、今後の予定は。子どもの時に体験させることが少ないと感じているので、アフタースクールは良いことだと思う。

⇒事務局：地域の講師やスタッフの確保が必要であり、一度に全地区へ広げていくことは難しいが、最終的には市内全域に広げていく予定。

- ・委員：淡路島で子育てをしていると、子どもに何か体験させようとした場合に京阪神まで出かける必要があることが多い。アフタースクールや夢プロジェクトの取り組みを市内全域に広げ、内容も充実させることで、市内の子育て環境、教育環境を向上させていくことが重要。また、夢プロジェクトを規模拡大させていくのであれば、成果がわかる指標の設定もしていただきたい。

- ・委員：10～20年後には今の仕事が半減する社会になるという予想がなされている。本事業の目的である表現力や人とかかわる力を培うことが重要であると思うが、その他にどのようなものに力を入れてこれらを伸ばす教育を行っているのか。

⇒事務局：防災に対する基礎知識、考え方を持っている子どもを育てる防災ジュニアリーダー育成事業や、ALTの先生が子ども向けの番組を作成してケーブルテレビで放送するなどの取り組みも行った。また、インターネットが発達した社会で知識自体は容易に手に入るが、それをどう活用していくのかを学ぶ意味でもコアカリキュラムを実施している。その他にも、職業体験としてトライやるウィークも実施している。

- ・委員：沼島へ離島留学生を呼び込むにあたって、いきなり沼島で生活するのは現実的に難しいため、小規模特認校のメリットも活かして淡路島側からの通学環境を整備することは重要。

3. その他

4. 閉 会

○閉会にあたり、副委員長よりごあいさつをいただいた。